

# 日本原子力学会炉物理部会第 55 回全体会議 議事録

日時：2021 年 9 月 8 日（水）12:10-12:50

場所：日本原子力学会 2021 年秋の大会 1I\_GM オンライン

参加者数 50 名前後

## 【審議事項】

### 1. 令和 2 年度決算と 3 年度予算の補正について

財務小委員会担当幹事を中心に、令和 2 年度決算、令和 3 年度予算を修正した資料 54-01 補正資料、資料 54-01 補正資料を作成したこと、これを運営小委員会で審議、承認したことが資料 55-01 を用いて報告された。これは令和 2 年度に学会本部から部会への配布された予算の剰余を部会予算として繰り越していた点を修正したものである。この補正について、本全大会で事後了承された。

### 2. 令和 3 年度予算及び執行状況について

財務小委員会より、資料 55-02 を用いて、令和 3 年度炉物理部会予算及び実績が紹介された。会場より、「翌年度繰越金」欄の注書について、「セミナーの剰余金も含めた剰余金全額が学会本部に返納されるという書き方となっていること」について指摘があった。正しくは「学会本部から部会に配布された予算の剰余分の返納に加え、セミナー等部会収入の 20%を本部に納付」であること、資料 55-02 記載の計算値はその正しい返納ルールに基づいていることが説明された。この注釈を修正することで、本予算及び執行状況は承認された。

### 3. 令和 4 年度予算（案）について

財務小委員会より、資料 55-03 を用いて、令和 4 年度炉物理部会予算案が紹介された。基本的に令和 3 年度予算を踏襲している。本案は承認された。

### 4. 2022 年春の年会部会企画セッション検討状況

学術交流小委員会担当幹事より、2022 年春の年会（神戸大学予定）の企画セッションに関する検討状況が資料 55-04 を用いて説明された。核データ部会との共催の方針で、JAEA より公開予定の JENDL-5 の関係する内容を検討中であることが紹介された。核データ部会との共催という提案について、承認された。

### 5. トリウムおよび溶融塩高速炉に関するシンポジウムについて

専門委員会の「トリウム原子力システム」は当部会に紐づけられている。専門委員がセミナー等を開催する際は当部会の承認を必要とする。「トリウム及び溶融塩高速炉に関するシンポジウム」を 5/18 開催することについて運営小委員会で審議、承認したことについて、本全体会で庶務幹事より報告し、事後了承された。

### 6. 試験研究炉利用検討 WG の活動について

JAEA もんじゅの跡地に建設が計画されている試験研究炉について、炉物理研究の観点からの要望事項を集約する試験研究炉利用 WG を本年度上期に立ち上げた。この WG では、シニアと

若手の二つのグループに分かれ、それぞれに要求機能、要望等の議論を進めたことが紹介された。若手からは、高い自由度を確保した設計を求めること、そのために合理的な許認可の仕組み(Graded Approach)を望むだけでなく、その仕組みの開発に主体的に取り組むことなどが提案された。これらの検討をもとに、本大会の企画セッションが準備されたことが紹介された。

#### 【報告事項】

#### 7. 令和3年度炉物理部会賞受賞者紹介

令和3年度炉物理部会賞の紹介が行われた。本年度は奨励賞2件が授与された

件名：時間依存の非均質中性子輸送計算に関する計算手法の高度化

受賞者：辻田 浩介 氏（株式会社原子力エンジニアリング）

件名：燃料デブリによる臨界事故時の影響評価に関する研究

受賞者：福田 航大 氏（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）

#### 8. 第52回炉物理夏期セミナーについて

セミナー小委員会担当幹事より、資料55-08を用いて、8/30、31にOn Line開催した夏期セミナーについて、報告された。昨年度に奈良開催で準備したものが一年延期となり、さらに本年度も対面開催を断念し、オンライン開催となったが、参加者71名と盛況であった。講師の先生方が工夫をされ、拡散方程式や実効断面積の作成法など講義とともに、解析的計算、ExcelあるいはGoogle Colaboratoryを用いた演習が行われた。oViceを用いた懇親会やZoomのブレイクアウトルームを用いたシェアリングタイムなど、運営側が工夫され、充実したものとなったことが紹介された。また、若手研究会も参加者20名を集めての開催なり、名大、阪大、北大からの発表が行われた。収支が20万円程度の黒字となったが、これを単に部会繰り越し金とするのではなく、今後のセミナー等に役立つ用途を考えるかどうかという提案があった。例えばオンライン開催を充実させるためのソフトウェアや、来年度セミナー懇親行事での景品などである。この提案はセミナー小委員会と運営小委員会で検討する。

#### 9. ICNC2023 準備状況 (須山氏) (資料55-09)

資料55-09を用いて2023年10月仙台にて開催予定の臨界安全国際会議の準備状況がJAEA須山氏から紹介された。春の年会からの動きとして、本年度より須山氏が準備の中心となること、7/8にコアメンバーの打合せをもち、スケジュール確認、OECD/NEA/NSC/WPNCsに協力要請したこと、今秋正式な組織委員会を発足し、銀行口座をひらき、国際諮問委員会メンバーの選定に入ることが紹介された。原子力学会から200万円の前借をするが、この返済については利子をとられるとの情報が会場から寄せられた\*。

\*この件は学会規則0303「事業活動にかかわる本部管理費、貸付金、価格設定、収支処理に関する規程」6~9条に従うとのこと。中島健教授より。

#### 10. 炉物理専門研究会の案内 (卞先生) (資料55-10)

京都大学複合研卞先生から、第9回「炉物理専門研究会」を12月8日にZoomでOn Line開催予定であることが報告された。日程はANS Winter meetingを避けたものとなっているが、他の会議が重なる場合は日程変更もあり得るとのこと。

**【配布資料】**

資料 55-01：令和 2 年度決算及び令和 3 年度予算案の補正について

資料 55-02：令和 3 年度 炉物理部会予算及び実績

資料 55-03：令和 4 年度 炉物理部会予算案

資料 55-04：2022 年春の年会部会企画セッション検討状況

資料 55-05：トリウムおよび熔融塩高速炉に関するシンポジウムについて

資料 55-01：試験研究炉に対する若手要望の集約結果(案)

資料 55-02：第 15 回（令和 3 年度（2021 年度））日本原子力学会炉物理部会賞選考について

資料 55-03：第 52 回炉物理夏期セミナー開催報告

資料 55-04：2023 年臨界安全国際会議（ICNC2023）の準備状況

資料 55-05：第 9 回「炉物理専門研究会」のスケジュール